

ウインターカップ2018

平成30年度 第71回全国高等学校バスケットボール選手権大会 岡山県予選会

日時	2018年11月4日	10:00	女子	決勝
会場名	笠岡総合体育館			Mコート 第I試合

○ 就 実 78	$\left\{ \begin{array}{l} 23 - 16 \\ 24 - 11 \\ 13 - 19 \\ 18 - 15 \end{array} \right\}$	61 倉敷翠松 ●
----------	--	-----------

審判名	主 審	前花直哉					副 審	柏木琢磨, 岸本祥也					
選手名	背番号	得点	3ホ ^イ ント	2ホ ^イ ント	フ ^リ ー スロ ^ー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ホ ^イ ント	2ホ ^イ ント	フ ^リ ー スロ ^ー	ファウル
小坂 幸羽 (C) *	4	5	1	1		3	角場 沙綾 (C) *	4	4		2		3
山中 茜音	5	-					福山 怜実 *	5	23		10	3	1
井上 玲菜	6	5		2	1	3	元林 沙月	6	2		1		3
平井 日奈子	7	-					梅澤 実佑 *	7	2		1		3
岩谷 樹	8	-					高橋 実優 *	8	12	2	2	2	2
中矢 愛乃	9	-					信岡 実咲	9	0				
岡村 季保 *	10	22		9	4	1	妹尾 樹里	10	0				2
松尾 梨央 *	11	19		7	5	1	平野 愛	11	0				
川崎 莉緒 *	12	0				1	三島 瀬理海	12	1			1	1
東 小梅	13	-					下橋 永奈	13	-				
鳥田 光理 *	14	27	3	7	4	2	原田 亜未 *	14	17	1	6	2	2
長尾 優里衣	15	-					大谷 玲未	15	-				
古川 裕理	16	-					中尾 心咲	16	0				
佐藤 愛莉	17	-					産賀 菜名	17	-				
若狭 朱理	18	-					山本 明依	18	-				
合 計		78	4	26	14	11	合 計		61	3	22	8	17

戦 評

女子決勝は就実対倉敷翠松の県総体と同じ対戦となった。

1P 両チームともマンツーマンディフェンスで素早いチェックを見せ、開始1分は無得点だったが、翠松が一瞬の隙を突き、⑤のインサイドで先制し、立て続けに⑭のドライブでリードを奪う。就実は翠松の守りに苦しむも、⑩の得点で互角の立ち上がりを見せる。その後、翠松は⑤の高さを生かしたオフェンス、就実は⑩、⑭らの鋭いドライブで得点を重ねていく。残り4分、就実7-10翠松タイムアウトの後、就実の追い上げが始まる。就実は⑩のジャンプシュートを皮切りに⑭がリバウンド、3ポイントと連続得点、残り2分、⑪のフリースローで逆転に成功する。その後も⑭が3ポイント、⑩のドライブからの得点で就実がリードを広げ、就実23-16翠松で1P終了。

2P 就実⑭のジャンプシュートでスタート。翠松も立ち上がり⑧の3ポイントを含む8得点で追い上げを図るものの、就実は厳しいチェックから速いボール運びで、⑭、⑪を中心に確実に得点に結びつけ、リードを広げていく。残り5分、就実38-25翠松となったところで、翠松のタイムアウト。その後、翠松⑭がリバウンドからシュートを決めるが、それ以降は就実の堅い守りに得点することができず、一方就実は⑥が攻守ともインサイドで頑張りを見せ、翠松の高さに対抗し、じわじわと点差を広げる。残り2分からは翠松のファウルが重なり、得たフリースローから就実⑭、⑩、⑪らが得点し、リードをさらに広げ、就実47-27翠松で前半終了。

3P 翠松ボールでゲームはスタート。前半同様マンツーマンでゲームは進む。開始直後、翠松は何度もシュートを放つがなかなか決まらない。一方、就実は⑦のレイアップや⑩のジャンプシュートやゴール下、⑤のジャンプシュートで得点を重ねていく。だが、次第にペースを掴み始めた翠松は⑭のゴール下や⑥がリバウンドからのシュートでファウルをもらいバスケットカウント決める。その後もインサイドからのパスを受けて⑭の3ポイントやゴール下の1対1を⑤がねじ込みくらいついていき、点差を縮め、就実60-46翠松で3P終了。

4P 立ち上がり、就実⑩スティールからの速攻で、翠松のファウルを誘い、落ち着いてフリースローを決める。その後、就実⑪のレイアップや翠松⑥のジャンプシュートで両チーム得点を重ねていくが、お互いにターンオーバーが増える。その中で、翠松は⑭を中心にスピード感あるオフェンスで10点差まで詰め寄る。就実④がファウルをした残り5分で翠松がタイムアウト。その後、就実は④、⑩、⑭が確実にシュートを決めて追い上げを許さず、残り3分、後半2回目のタイムアウト。翠松は前からプレッシャーをかけ、外角のシュートを狙うが得点には結びつかない。リバウンドを確実にとった就実は⑪、⑩が落ち着いて得点を決めていく。翠松は⑧が3ポイントを決め最後の意地を見せたが、就実78-61で就実が勝利し、6年連続22回目のウインターカップ出場を決めた。

